



## 太陽はどうしてあるの

### 宇宙のガス星雲からできた

今から約50億年前の宇宙には、もやもやとした雲のような、ガス星雲とよばれるものがありました。これは、ほとんど、水素ガスからできていました。

このころ、このガス星雲から遠くはなれた星が、大爆発を起こしました。この爆発の影響を受けて、ガス星雲はどんどん縮みながら、うずまきの形に集まり始めました。縮むにつれて、熱くなっていきました。その中心部の温度が、1000万<sup>まんどスイー</sup>くらいになったときに、水素ガスがヘリウムガスに変わる、核融合反応が起こりました。

これが太陽の始まりで、太陽が燃え始めたのです。ガスは熱くなって広がろうとしますが、太陽自身の重さで、縮まろうとする力がはたります。この広がろうとする力と、縮まろうとする力がつりあったときに、太陽の丸い形ができました。

### 太陽の表面の温度は約6000

約50億年前にできた太陽は、今でもかがやき続けています。

太陽のかがやいて見える表面を、光球といえます。光球の温度は、約6000です。太陽の中心部の温度は非常に高く、約1500万にもなります。

非常に高い温度のために、太陽の物質は、ガスの状態になっています。外側のガスは、内側のガスの強い引力で引きつけられているので、ガスは広がらず、太陽は丸い形を保っています。(監修・国司 真)

